

# 歌メロディのスタート・ポイントと長期記憶(1)

——BS20世紀日本のうたベスト10曲に見る傾向——

藤 井 正 博

キー・ワード：メロディ、長期記憶、日本の歌

はじめに

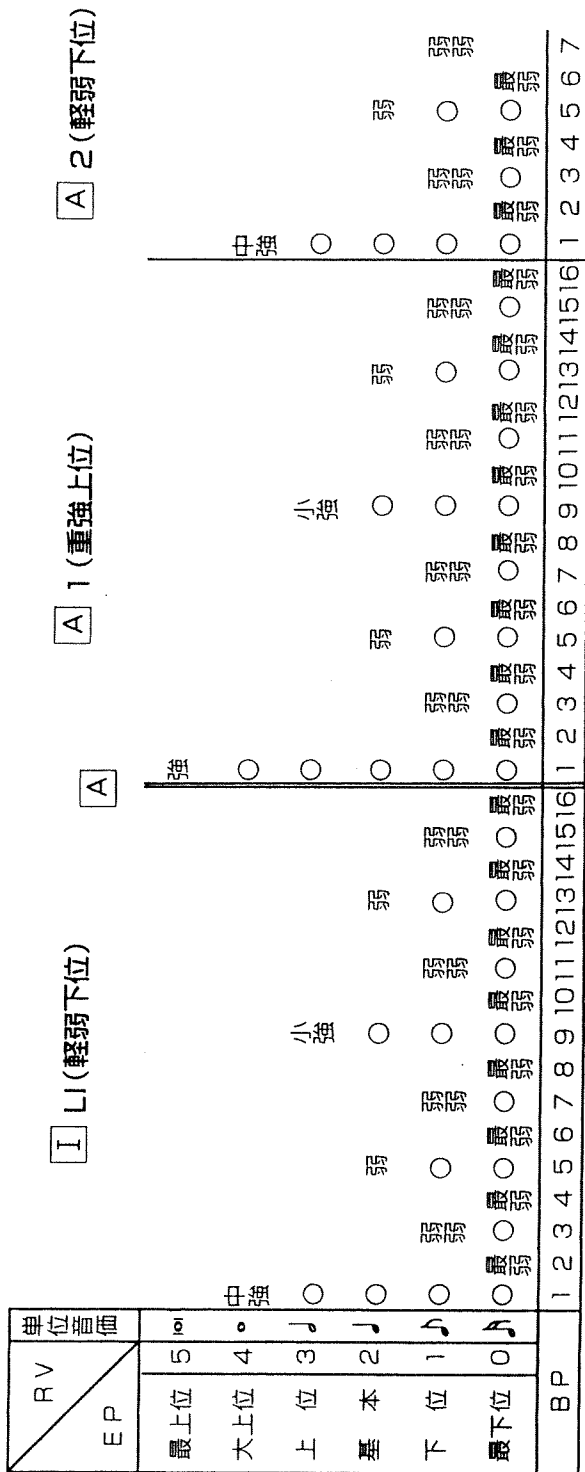
どのようなパターン・特徴をもった歌のメロディが長く多くの人の記憶に残るのか？ この問題に関してはまだほとんど研究がなされていない。脳科学・心理学の面から言えば、長期にわたる記憶、とりわけその呼び出しのメカニズムという問題に関してはまだほとんど手つかずの状態である。音楽学の面から言えば、メロディやリズムの研究はハーモニーのそれに比べると大きく立ち遅れている。さらに困難がある。歌が人の脳に記憶される時、メロディの重要度はどれくらいなのか？ 歌詞やボーカリストの声質、リズム・ハーモニーアレンジや伴奏楽器の音色等々よりメロディは重要なのか？ この問題にすら脳科学研究のメスはまだ入っていない。が、嘆いていても仕方ない。人それぞれ、曲それぞれと言ってしまえばそこで研究はストップする。本小論は以下に設定するごくごく限定した分析視角から歌メロディの長期記憶という未開拓のテーマにほんのわずかばかりの接近を試みようとするものである。

## I 分析視角——歌メロディのスタート・ポイントの3パターン分類——

筆者はすでに拙稿「日本の歌メロ進化論(序) —Aメロディの起動と[A]第1小節線—」において歌メロディを分析するひとつの有効な視角としてそのスタート・ポイントにおけるパターン分類を提出した。詳細については上記拙稿を御精読いただきたいが、ここではごく簡単に要点のみを記しておく。歌メロディのスタート・ポイントは、そのAメロディがスタートする前後にある複縦線＝[A]第1小節線(以下単に複縦線とのみ記す)によって大きく3つのパターンに分類できる。すなわち、(1)複縦線より前から(楽譜上では左から)Aメロディがスタートする早出パターン、(2)複縦線上からAメロディがスタートするJustパターン、(3)複縦線より休符をはさんで遅れてAメロディがスタートする遅出パターンである。早出・Just・遅出パターンは、図1に示した2小節リズム・ダイナミクス(詳細は上記拙稿参照)のエネルギ場の中でそれぞれ異なった性質を持つ。3拍子系・3連系曲では2小節リズム・ダイナミクスは図1とは異なるが、3パターンの性質の相違は4拍子系のそれと基本的には変わらない。

EP=エネルギー・ポジション  
BP=ビート・ポジション  
RV=ランク値

図1 2小節リズム・ダイナミクス4分の4拍子基本モデル



3パターンの性質の差異は主に複縦線上の強拍との関係から生れる。早出パターンは第2音符以降で強拍と結びつく。強拍に至る部分では基本的に弱→強というダイナミクスの増大、言わば隠れたクレッシェンドの状態でもロディが運動する。それ故、この早出パターンは歌の出だしの部分でスピード感、シャープさ、明るい、軽いといった感覚・印象を人の脳に与える。ポップス・ポピュラー系の歌に最も多く使用されている。また初期の叙情歌にもある程度出現している。強拍から始まるJustパターンは、力強さ、激しさ、大きさを最もよく表現できるパターンである。強拍のエネルギーによってその第1音符に他のパターンでは出現しない長音符—2分音符以上—をもつことができ、最も多様な種類の音符からメロディを発進させることができる。リズムの最も大きな区切れから歌がスタートするので多くの人にとって歌いやすい。こうした特徴をもつこのJustパターンは、唱歌・童謡を始めあらゆるジャンルの歌にオールラウンドに使用されている。複縦線より休符をはさんで遅れてスタートする遅出パターンの最大の特徴は、歌の出だし部分で強拍と結びつかない点にある。それ故、この遅出パターンは弱い、暗い、鈍い、沈んだ、緩んだ、不活発なといったマイナスの感覚・印象を人の脳に与える。が、無論プラス面もあり、深い情感、重い苦しみや悲しみ、穏かな安らぎ等を表現するのに適している。民謡・日本調・演歌等に多く使用されている。余談になるが、バブル崩壊後の1990年代中頃以降のJポップス曲にこの遅出パターンが若干ではあるが増加傾向にあるのは興味深い。

早出・Just・遅出・パターンの歴史的な出現率は、それぞれのパターンと相性の良い歌のジャンルの出現・流行とともに時代・時期によってかなりの程度ダイナミックに変化していると思われるが、残念ながらなかなか数値化できない。ヒット曲あるいはよく知られている歌とそうでないものとをどの基準で線引きすればいいのか？ データ・サンプルの取り方は本当に難しい。が、本小論が対象にする20世紀日本の歌全体に関しては経験的に次のように言う。少なくともいずれかのパターンが他の2パターンより圧倒的に出現率が高いあるいは低いということはない。3パターンの間にそれほど大きな数的アンバランスはない。ここではこの点だけを踏まえておけばいい。

本章で提出した歌メロディのスタート・ポイントの3パターン分類というごくごく限定した視角から以下分析を進めてゆく。

## II 分析対象曲—BS20世紀日本のうたベスト10曲—

分析対象に選んだのはBS20世紀日本のうたベスト10(以下BSベスト10)曲である。選んだ理由は以下の通りである。第1に、1997年1年間を通じて投票されたこのBSベスト10の投票総数が空前の1775万票余りの多数であった。第2に、1人好きな歌を3曲自由に選び曲名を記す投票方式であり、例えば局側によるリストアップ・選曲方式に比べより投票者の好みがストレートに反映されている。投票曲名数は2万曲。第3に、ほぼ20世紀の100年近い長い期間を対象にしている。「長く多くの人の記憶に残る」歌メロディの研究という本小論のテーマに最適の条件

をこのBSベスト10は持っている。

1998年初めBS2で「BS20世紀日本のうた—グランド・フィナーレー」という番組タイトルでベスト10曲が発表・放映された。第10位の投票総数は19万票余り、第1位は43万票余りであった。以下、10位から順に曲名、作曲あるいは発売年、略譜、3パターン分類を記してゆく。(なお、譜は以下のような複縦線前後の数音符のみ、必要最小限の略譜とした。音高はここでは必要ないので省略。拍子は「赤とんぼ」以外は4分の4拍子系で省略。できれば図1をイメージしながら見てほしい。略譜はすべて『全音歌謡曲大全集』に基づいている。)

10位 LOVE LOVE LOVE

1995年

半拍早出パターン



9位 赤とんぼ

1927年

Just パターン



8位 秋 桜

1977年

Just パターン



7位 荒城の月

1901年

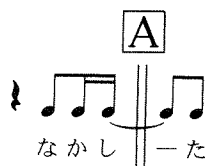
Just パターン



6位 いとしのエリー


1979年

1拍早出パターン



5位 アジアの純真  
1996年  
半拍遅出パターン


A



ペ キ ン

4位 高校三年生  
1962年  
Just パターン


A



あ か い

3位 神田川  
1973年  
半拍早出パターン


A



あ な た は

2位 いい日旅立ち  
1978年  
半拍早出パターン


A



ゆ き ど け

1位 川の流れるように  
1989年  
1拍早出パターン

A



し ら ず

### Ⅲ 考察(1) —遅出パターンと長期記憶—

3パターン分類によるベスト10曲の内訳は、早出パターン5曲、Justパターン4曲、遅出パターン1曲となる。が、10位と5位の曲には問題がある。BSベスト10の投票が行われた1997年を起点に考えると10位の「LOVE LOVE LOVE」は2年前、5位の「アジアの純真」はわずか1年前の発売・ヒット曲である。この2曲への投票は、まだヒットの余韻が残っている中で、あるいは現在進行形に近い状態で行われたと考えられる。長く記憶に残る歌メロディの研究という本小論のテーマからするとこの2曲は対象曲から除外されるべきであろう。では何年以前の曲

ならよいのか？ 脳科学の分野では、数分以上から長期記憶と考えているようであるが、ここではヒットの余韻が消え、日常的にその歌が耳から脳へ入力されなくなるであろう期間、すなわち5年以上の期間を長期記憶としておく。

上記2曲を除く8曲の内訳は、早出パターン4曲、Justパターン4曲、遅出パターン0曲となる。5年以上の時間を経た遅出パターンの歌は何故に1曲もベスト10にランクインできなかったのか？ 以下この問題を中心に考察を進める。

すでに第I章で触れたように20世紀日本の歌全体で見ると3パターンの出現率にそれほどの大きな数的アンバランスはない。また上記のBS2の「グランド・フィナーレ」の番組前半でベスト100内の曲が順位ランダムに短く放映されているが、遅出パターンと考えられる歌が20数曲は確認できる。遅出パターンの曲が極端に少ないわけではない。ただベスト10に入るほど多くの人の支持を得ることができなかったのである。単純な確率論で言えばベスト10中の5年以前の8曲の中に遅出パターンが2曲程度あってもいいはずである。だが結果は0曲である。何故にか？

もともと遅出パターンの日本の歌には名曲がなかったと言ってしまえば議論はそこで終わる—もちろんその場合は何故遅出パターンには名曲がないのかという新たな問題が生じる—が、そんなことはない。例えば「上を向いて歩こう」(1拍遅出パターン)は一般的イメージの中ではベスト10に入っていて当然と多くの人が思う歌であろう。また「いつでも夢を」(1拍遅出パターン)もベスト10候補として遜色ない歌であろう。支持・ファン層の偏るいわゆる演歌は除いたとしても、他にも数曲候補曲もある。遅出パターンの日本の歌に名曲がないわけではない。

ではどう考えればいいのか？ 無論歌詞やテーマ、ボーカリストの声質や魅力、リズム・ハーモニーアレンジや伴奏楽器の音色、あるいは歌後半のサビのメロディ等々にも遅出パターンの5年前の歌がベスト10入りしなかった要因があるのかもしれないが、ここではあくまでも遅出パターンそのものの中にその要因のひとつを探ってみる。

第I章で見たように歌のスタート・ポイントにおいて強拍と結びつかない遅出パターンは他の2パターンに比べ、一言で言うと弱いという感覚・印象を人の脳に与える。特にバックの伴奏なしに歌の部分だけを思い浮かべたり、歌ったりする場合はよりその傾向が強くなる。一般的に人間の脳はコンピューターと違って重要な部分だけを記憶し、そうでないものは選別し、捨てていくメカニズムを持っていることが知られている。歌の場合に应用すると特に長期の記憶の中では重要な部分である歌の要素—メロディ、歌詞、声質等—はクリアーに残るが、相対的に伴奏部分は後景に薄れゆくと考えられる。BSベスト10の投票者の中にかつて伴奏付きでいつも聴いていた遅出パターンの歌を思い出してみたもののマイナスのイメージ・ギャップを感じ、投票候補曲から除いた人も—それほど数は多くないにしても—いるのではなかろうか。

また遅出パターンのこの弱いという感覚・印象は記憶呼び出しの際にも何らかのマイナス作

用をもたらすと考えられる。その脳科学的メカニズムは現在のところ詳細はわからないが、過去に好きになった歌に呼び出し検索をかける場合を想定する。好きになった歌が3曲なら問題はない。遅出パターンの歌もすんなり検索され投票されるだろう。が、実際にはこのBSベスト10の投票者たちは少なくとも10曲あるいは数十曲程度過去に好きになった日本の歌があるだろう。多数の歌に呼び出し検索をかける時、遅出パターンの歌はその感覚・印象の弱さ故に検索センサーに感知される確率が低くなる。簡単に言えば遅出パターンの歌には他の2パターンの歌に比べ思い出されにくい傾向があるのではないか。このミクロなメカニズムについては次章以降で考察する。

こうした呼び出し・3曲選択の過程におけるマイナス作用・性質が5年以前の遅出パターンの歌の投票数のある程度—数値化はできないが—の伸び悩みを生み、1曲もベスト10にランクインできなかった要因の一つと考えられる。逆に、相対的に早出・Justパターンのプラス作用・性質がクローズアップされることになるが、この問題についてはそれぞれのパターンをさらに細かく分類しながら次章以降で考察し、歌メロディのスタート・ポイントと長期記憶という本小論のテーマに深く迫っていきたい。

(紙数の関係上IV章以降は次号に掲載)

<次号以降の章構成(予定)>

IV 考察(2)—早出パターンと長期記憶—

V 考察(3)—Justパターンと長期記憶—

VI 考察(4)—音高進行パターンと長期記憶—

VII 考察(5)—サビ・メロディのスタート・ポイントと長期記憶—

VIII 考察(6)—その他のメロディ・パターン要素と長期記憶—

結び

(本号の主要参考文献・資料)

藤井正博「日本の歌メロ進化論(序)—Aメロディの起動と [A] 第1小節線—」『神戸山手女子短期大学紀要』41号、1998年

『全音歌謡曲大全集 [1]—[8]』全音楽譜出版社

『日本流行歌史—上・中・下—』社会思想社、1995年

柿本堯夫編『音楽心理学の研究』株式会社ナカニシヤ出版、1996年

池谷裕二『記憶力を強くする—最新脳科学が語る記憶の仕組みと鍛え方—』講談社、2001年

『BS20世紀日本のうた—グランド・フィナーレー—』(録画ビデオ)1998年

